

# B 国 語 問 題

## 注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。  
黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。  
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。  
なお、問題番号は一～三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。  
解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 六 この問題冊子は持ち帰ってください。
- 七

### マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①	
○	1
○	2
●	3
○	4
○	5

(3と解答する場合)

※

大問一・二については著作権の関係により掲載できません。  
引用した文章は次の通りです。

- ・大問一 梅崎春生『魚の餌』
- ・大問二 吉田正俊・田口茂『行為する意識 エナクテイヴィズム入門』

三 左の文章は『更級日記』の一節で、作者（当時三十二歳）が祐子内親王家に女房として出仕し始めた頃のことを記している。これを読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

母、尼になりて、同じ家の内なれど、方<sup>かた</sup>ことに住みはなれてあり。父<sup>て</sup>はただ、われをおとなにし据<sup>す</sup>ゑて、われは世にも出で交らはず、かげにかくれたらむやうにてゐたるを見るも、頼もしげなく心ぼそくおぼゆるに、<sup>(1)</sup>きこしめすゆかりある所に、「なにとなくつれづれに心ぼそくてあらむよりは」と召<sup>(2)</sup>すを、古代の親は、<sup>(注2)</sup>宮仕人はいと憂きことなりと思ひて過<sup>(3)</sup>ぐさするを、「今の世の人は、さのみこそは出でたて。さてもおのづからよきためしもあり。さてもころみよ」といふ人々ありて、しぶしぶに、出だしたてらる。

まづ一夜<sup>ひとよ</sup>参る。菊の濃くうすき八つばかりに、濃き搔<sup>かい</sup>練<sup>ねり</sup>を上に着たり。さこそ物語<sup>(注3)</sup>にのみ心を入れて、それを見るよりほかに、行き通<sup>る</sup>ふ類、親族<sup>しやく</sup>などだにことになく、古代の親どものかげばかりにて、月をも花をも見るよりほかのことはなきならひに、立ち出づるほどの心地、<sup>(5)</sup>あれかにもあらず、うつつともおぼえて、<sup>(7)</sup>暁<sup>あかつき</sup>にはまかでぬ。

里<sup>さと</sup>びたる心地には、なかなか、定まりたらむ里住みよりは、をか<sup>(8)</sup>しきことをも見聞きて、心もなぐさみやせむと思ふをりをりありしを、いと<sup>(a)</sup>はしたなく悲<sup>(9)</sup>しかるべきことにこそあべ<sup>(b)</sup>かめれと思へど、いかがせむ。

師走<sup>しはす</sup>になりて、また参る。局<sup>つぼね</sup>してこのたびは日ごろさぶらふ。上には時々、夜々<sup>よよる</sup>も上<sup>(c)</sup>りて、知らぬ人の中にうち臥<sup>ふ</sup>して、<sup>(10)</sup>まどろまれず、恥づかしうもののつつましきままに、忍びてうち泣<sup>(c)</sup>かれつつ、暁には夜深く下りて、日ぐらし、父の老いおとろへて、われをことしも頼もしからむかげのやうに、思ひ頼みむかひゐるに、恋しくおぼつかなくのみおぼゆ。母亡<sup>(注4)</sup>くなりにし姪<sup>めい</sup>どもも、生まれしよりひとつにて、夜は左右<sup>ひだりみぎ</sup>に臥し起きするも、あはれに思ひ出でられなどして、心もそらにながめ暮<sup>(11)</sup>らさる。立ち聞き、かいまむ人のけはひして、いといみじくものつつまし。

十日ばかりありて、まかでたれば、父母、炭櫃<sup>すびつ</sup>に火などおこして待ちゐたりけり。車より下りたるをうち見て、

「おはする時こそ人目も見え、さぶらひなどもありけれ、この日ごろは人声もせず、前に人影も見えず、いと心ぼそくわびしかりつる。かうてのみも、まろが身をは、いかがせむとかする」とうち泣くを見るもいと悲し。つとめても、「今日はかくておはすれば、内外人多く、こよなくにぎははしくもなりたるかな」とうちいひて向ひゐたるも、いとあはれに、なにのにほひのあるにかと涙ぐましく聞こゆ。

(注) 1 きこしめすゆかりある所——祐子内親王家。 2 古代の——古風な。昔氣質の。

3 物語にのみ心を入れて——作者は少女時代から物語に読みふける生活が続けていた。

4 母——作者の姉のこと。二人の幼い娘を残し、すでに亡くなっている。

## 問

(A) ——線部(1)について。ここで表している意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 話相手      2 成人      3 愛娘<sup>まな</sup>      4 女主人      5 侍女

(B) ——線部(2)は、誰のどういう様子か。次のうちから最も適当なものを一つ選び、番号で答えよ。

- 1 両親の、対話がなく寂しそうな様子  
2 父親の、働かず全てをあきらめた様子  
3 作者の、退屈で目標を見失った様子  
4 母親の、出家して孤独に暮らす様子  
5 作者の、何もせず頼りなく暮らす様子

(C) ——線部(3)について。具体的にどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 出仕をうながす

2 出仕をあきらめさせる

3 出仕するかどうか判断させる

4 出仕させないでおく

5 出仕を遅らせる

(D) 線部(4)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 試み      2 先例      3 結果      4 定め      5 生活

(E) 線部(5)の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 悲しみに沈んでいる

2 呆然<sup>ぼうぜん</sup>としている

3 腹立たしく感じている

4 後悔している

5 投げやりになっている

(F) 線部(6)を漢字一字に改めよ。(ただし、楷書<sup>かいしよ</sup>で記すこと)

(G) 線部(7)の現代語訳を、五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(H) 線部(8)から読み取れる作者の気持ちとして最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 女房として出仕することへの期待

2 家の中で暮らしていることへの不満

3 親もとから離れて出仕することへの躊躇<sup>ちゆうちよ</sup>

4 これまで通りに暮らしたいという願望

5 いやでも出仕するしかないという覚悟

(I) ~~~~~線部(a)~(c)の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 1 推量 | 2 完了 | 3 自発 | 4 受身 |
| 5 可能 | 6 尊敬 | 7 過去 |      |

(J) ———線部(9)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 苦しい
- 2 悔やまれる
- 3 落ち着かない
- 4 思いがけない
- 5 浅はかだ

(K) 空欄  に入る言葉として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 やをら
- 2 さすがに
- 3 よも
- 4 こちら
- 5 つゆ

(L) ———線部(10)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 頼りない
- 2 気がかりだ
- 3 待ち遠しい
- 4 残念だ
- 5 申し訳ない

(M) ———線部(11)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 うんざりする
- 2 思いなおす

3 気を紛らわせる

4 もの思いをする

5 びくびくする

(N) ——— 線部(12)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 人から大切にされ

2 人と対面もして

3 人の目を気にして

4 人並に暮らして

5 人の出入りもあり

(O) ——— 線部(13)は何を指すか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 母親が出家していること

2 作者が家を離れていること

3 家が荒れ果てていること

4 父母が年老いていること

5 作者が帰宅していること

(P) ——— 線部(14)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 はるかに      2 今さら      3 やはり      4 思いがけなく      5 次第に

(Q) ——— 線部(15)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 生きがい      2 希望      3 取り柄      4 美しさ      5 愛想

【以下余白】

